

河内長野市埋蔵文化財調査報告書VI

1992年3月

河内長野市教育委員会

序 文

河内長野市は自然と文化財に恵まれた豊かな町です。

この環境は人々をひきつけ、近年は府下で最も人口増加が著しい町となりました。このため、生活環境の整備のため多くの都市型開発が進められました。

この恵まれた環境を求めて人々が移り住んできますと、今度は逆に、受け入れるための整備のために文化財や自然が破壊される危険が増大してきます。

地下に眠る埋蔵文化財は自然と共に真っ先に危機に立たされます。このような状況で、市教育委員会は開発に先立ち、埋蔵文化財の調査を実施し、把握に努めています。

今後とも市民の皆様の協力により、国民共有の財産である埋蔵文化財の保護に努めたい所存です。

最後になりましたが、調査に協力していただきました地主の方々、施工者の皆様方に記して感謝いたします。

河内長野市教育委員会
教育長 中尾謙二

例　　言

1. 本書は平成3年度に河内長野市教育委員会が国庫補助事業として計画、実施した塩谷遺跡ほか市内遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、本市教育委員会社会教育課文化係尾谷雅彦を担当者として、平成3年4月1日から着手し平成4年3月31日をもって終了した。
3. 本書の執筆は尾谷雅彦が行なった。
4. 発掘調査及び内業整理については下記の方々の協力を得た。 (敬称略)
明地奈緒美・中村清美・中野雅美
5. 調査の実施に関しては下記の方々の協力を得た。 (敬称略)
中家一男・山本雅司・二階正司・堂ノ前徳三
浦野巖・今西(杉山)和良・中西和子・久保八重子・村上貴美・喜多順子・
阿部園子

目 次

序 文	
例 言	
1. はじめに	1
2. 調査の状況	1
3. 調査の結果	5
(1)上田町遺跡 U E D91-1	5
(2)小塩遺跡 O S O91-1	7

挿図目次

第1図 河内長野市遺跡分布図	3
第2図 上田町遺跡調査地位置図	5
第3図 上田町遺跡遺構全体図	5
第4図 上田町遺跡土層断面図	6
第5図 上田町遺跡出土遺物実測図	6
第6図 小塩遺跡調査地位置図	7
第7図 小塩遺跡遺構全体図	7
第8図 小塩遺跡土層断面図	8
第9図 小塩遺跡出土遺物実測図	8

表 目 次

第1表 発掘届出件数月別一覧	1
第2表 民間開発関係発掘調査一覧	2
第3表 河内長野市遺跡地名表	4

図版目次

図版1 遺構・遺物 上田町遺跡調査区全景(北から)(北から)、出土遺物	
図版2 遺構・遺物 小塩遺跡調査区全景(北から)(西から)、出土遺物	

1. はじめに

大阪府の東南端に位置する河内長野市は、旧河内国錦部郡に属し、紀伊・大和・和泉の三国に接していた。この為、古代から交通の要所となったところであります。現代の河内長野市は大阪市の通勤圏に位置し、ベットタウンとして年々人口の増加する町である。特にここ数年の人口増加は府下でも屈指の伸び率を示し、住宅の新築・改築件数も増えている。この為、住宅開発とあわせて交通アクセスの整備、住宅環境の整備など、公共投資も盛んである。この結果、地下に眠る埋蔵文化財への影響は増加するばかりである。

このような状況下のなかで本市教育委員会は国庫及び府からの補助金を受けて発掘調査を実施した。

本年度の文化財保護法57条の2及び3の発掘届及び発掘通知の件数は1月末現在で総数53件、内発掘届39件、発掘通知14件である。また、今年度は遺跡の新規発見届及び通知は4件提出されている。

2. 調査の状況

今年度の発掘届にみられる原因者の状況は、住宅造成地への個人住宅の建築及びマンション計画変更に伴う届出の再提出の例が目立った。

また、今年度も新規発見の遺跡が4件と例年より多く、これは住宅地よりも店舗建設に伴うものである。

第1表 発掘届出件数月別一覧

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	総 数
発掘届	5	4	2	4	2	3	2	6	10	1	39
発掘通知			1		1	2		1	7	2	14
発見届	1	1		1							3
発見通知	1										1

第2表 主な民間開発発掘調査一覧

(1月末現在)

遺跡名	調査期間	申請者	申請面積 (m ²)	用途	区分	備考
向野遺跡	3.4/8~4/22	向野町会	118	町会館	原因者	別途掲載
長池窯跡群	3.5/1	角 義昭	426	個人住宅	原因者	遺構・遺物なし
長池窯跡群	3.5/10	武市 道	118	個人住宅	原因者	遺構・遺物なし
上田町遺跡	3.5/13~5/17	中家一男	253	個人住宅	国庫	本書掲載
尾崎遺跡	3.5/29	川上正男	927	店舗	原因者	遺構・遺物なし
小塙遺跡	3.5/23~5/28	山本雅司	286	個人住宅	国庫	本書掲載
鳥帽子形城	3.5/30	二階雅司	343	個人住宅	原因者	遺構・遺物なし
塙谷遺跡	3.7/11	水谷裕幸	884	倉庫	原因者	遺構・遺物出土
菱子尻遺跡	3.8/5	須本きもの 松葉	82	店舗	原因者	遺構・遺物なし
寺元遺跡	3.8/13	吉尾光晴	231	個人住宅	原因者	遺構・遺物なし
野作遺跡	3.7/30~8/29	トヨタカローラ南海 ㈱	350	店舗	原因者	新規発見
塙谷遺跡	3.9/25	大阪綠風観光㈱	9966	共同住宅	原因者	遺構・遺物なし
向野遺跡	3.9/25~9/30	堂ノ前徳三	1052	個人住宅	国庫	遺構・遺物なし
小塙遺跡	4.1/13~調査中	東 福松他	2340	宅地造成	原因者	



第1図 河内長野市遺跡分布図

第3表 〈河内長野市遺跡地名表〉

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	鳴尾遺跡	弥生時代・中世	46	加塙遺跡	古墳時代後期
2	塩谷遺跡	弥生時代～中世	47	尾崎北遺跡	古墳時代後期
3	小山田1号古墓	奈良時代	48	尾崎遺跡	古墳時代～中世
4	小山田2号古墓	奈良時代	49	加賀田神社遺跡	中世
5	糸子尾遺跡	縄文時代～中世	50	ジョウノマエ遺跡	中世
6	千代田神社遺跡	中世	51	庚申堂	中世
7	市町東遺跡	弥生時代・中世	52	栗山遺跡	中世
8	寺ヶ池遺跡	旧石器時代～縄文時代	53	寺元遺跡	奈良時代～平安時代
9	住吉元宮遺跡	中世	54	觀心寺	平安時代～
10	西之山町遺跡	中世	55	延命寺	
11	野作遺跡	中世	56	川上神社遺跡	中世
12	西代神社遺跡	中世	57	金剛寺	平安時代～
13	本多瀬陣屋跡	飛鳥・難波時代・近世	58	日の谷城跡	中世
14	占野町遺跡	中世	59	沢の山城跡	中世
15	勝所瀬陣屋跡	近世	60	峰山城跡	中世
16	向野遺跡	縄文時代～中世	61	日野觀音寺遺跡	
17	五の木古墳跡	古墳時代後期	62	仁王山城	中世
18	法師塚古墳伝水地	古墳時代	63	岩立城	中世
19	長野神社遺跡	中世	64	タコラ城	中世
20	ケケ原神社遺跡	中世	65	国見城跡	中世
21	長池窓跡群	平安時代～近世	66	鶴原山城跡	中世
22	伝「伴良順」		67	旗藏城跡	中世
23	上原近世瓦窯	江戸時代	68	大江家	中世
24	上原北遺跡		69	石仏城跡	中世
25	上原中遺跡	古墳時代・中世	70	左近城跡	中世
26	塚穴古墳・上原遺跡	古墳時代後期～中世	71	清水遺跡	中世
27	大日寺遺跡	中世	72	栗山寺	中世
28	河合寺城跡	中世	73	千早口駅前遺跡	中世
29	末広窓跡	中世	74	地蔵寺	世
30	河合寺	中世～	75	鹿尾城跡	世
31	福田家	近世	76	葛城第18怪塚	近世
32	鳥帽子形古墳	古墳時代後期	77	天見駒北方遺跡	中世
33	鳥帽子形城跡	中世～近世	78	葛城第17怪塚	近世
34	鳥帽子形八幡宮	中世	79	栗山堂跡	中世
35	喜多町遺跡	縄文時代～中世	80	流谷八幡神社遺跡	中世
36	上田町窓跡	古墳時代	81	小野塚	中世
37	大蘭山遺跡	近世	82	蟹井西北遺跡	中世
38	大蘭山古墳	弥生時代後期～	83	蟹井南遺跡	中世
39	大蘭山南古墳	古墳時代後期	84	蟹井南南遺跡	中世
40	高向遺跡・高向南遺跡	縄文時代～中世	85	清水阿弥陀堂跡	中世
41	高向神社遺跡	中世	86	櫻現城跡	中世
42	懸持寺跡	中世	87	流畠塚墓	中世
43	野間里遺跡	奈良時代～平安時代	88	盛村地蔵堂跡	中世
44	宮山遺跡	縄文時代～平安時代	89	天神社遺跡	中世
45	宮山古墳	古墳時代後期	90	中村阿弥陀堂跡	中世
46	高木廻跡	縄文時代	91	西の村阿弥陀堂跡	中世
47	三日市遺跡	古墳時代～近世	92	東の村觀音寺跡	中世
48	小坂遺跡	縄文時代～奈良時代	93	光津守	中世～
49			94	葛城第15怪塚	中世
50			95	岩渕寺	中世～

3. 調査の結果

(1) 上田町遺跡 UED91-1

A. 位置と環境

当該遺跡は、中世から近世初頭にかけて登場する山城の鳥帽子形城の南側に位置する。調査地は、鳥帽子形城の南側丘陵の東側斜面、天見川に面する段丘上、標高130mを測る。

今回の調査は、調査地周辺に遺物の散布が見られたところから、新規の遺跡として届出し、調査を実施した。調査面積は約18m²である。

B. 結果



第2図 上田町遺跡調査地位置図 (1/5000)

調査した結果、若干の遺物と溝状遺構が検出された。

遺構面は、現地表下約40cmから検出された。

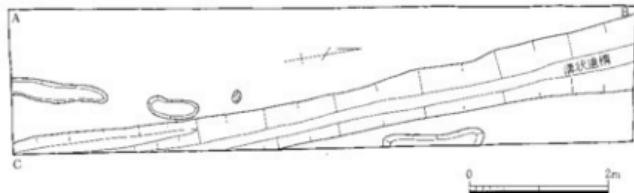
〔溝状遺構〕

包含層を切り込んで、トレーナーを斜めに縦断するよう南北に走る溝である。最大幅1m、深さ約0.1mを測る。

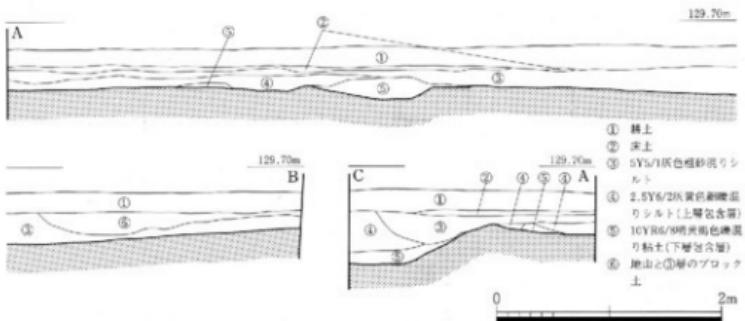
遺物は、伊万里染付碗（4）、軒平瓦（5）、不明鉄製品片（7）が実測可能であった。

C.まとめ

遺構は、近世の溝が確認されただけであるが、包含層と考えられる2層のシ



第3図 上田町遺跡遺構全体図 (1/80)

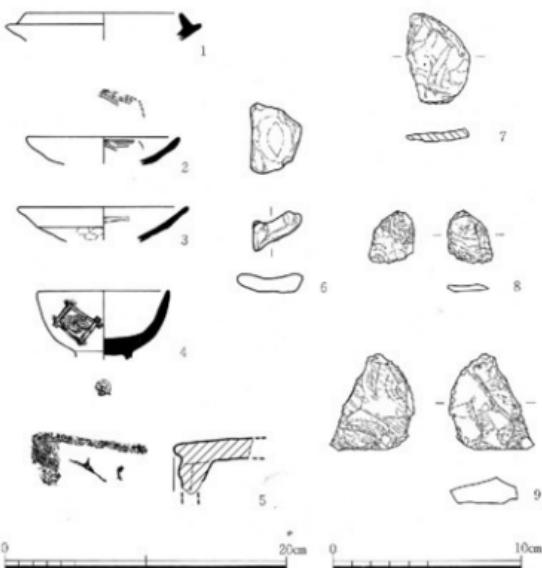


第4 上田町遺跡土層断面図 (1/50)

ルトと粘土を除去す
ると、北西側が落ち
込んでいるのが確認
され、遺構の可能性
がある。

包含層の遺物は、
須恵器坏身（1）、
瓦器塊（2・3）、
土師器把手（6）、
サヌカイト（8・9）
が実測可能であった。

このことは、当該
遺跡が複合遺跡であ
る可能性を示してい
る。



第5図 上田町遺跡出土遺物実測図

(2) 小塩遺跡 O S O 91-1

A. 位置と環境

当該遺跡は、天見川の河岸段丘上、標高約130mに位置する。

既往の調査結果を見ると、古墳時代後期、奈良時代、中世の遺構が確認されている。天見川を挟んで旧石器から近世の複合遺跡である三日市遺跡が位置する。また、南側には古墳時代後期の集落跡である加塙遺跡が近接している。

今回の調査地は、段丘中央に位置する。調査面積は約18m²である。

B. 結果

調査した結果、若干の遺物とピットと溝状遺構が検出された。

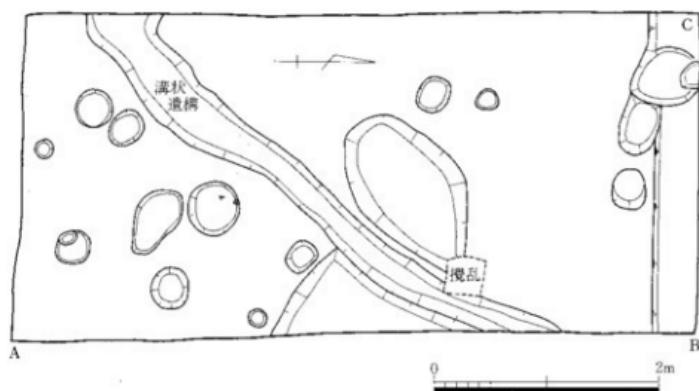
遺構面は、現地表下約30cmの地山面から検出された。

〔溝状遺構〕

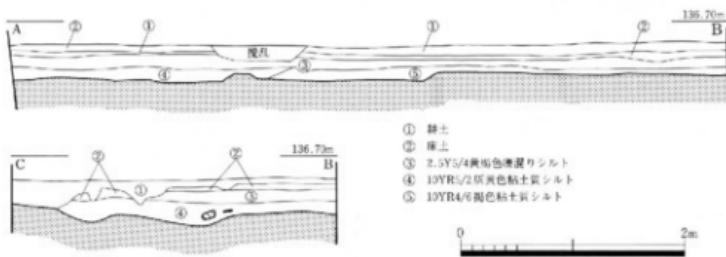
調査区を対角線上に東南から北西に走る溝で、幅0.4m、深さ0.1mを測る。遺物は、実測可能なものは出土しなかった。



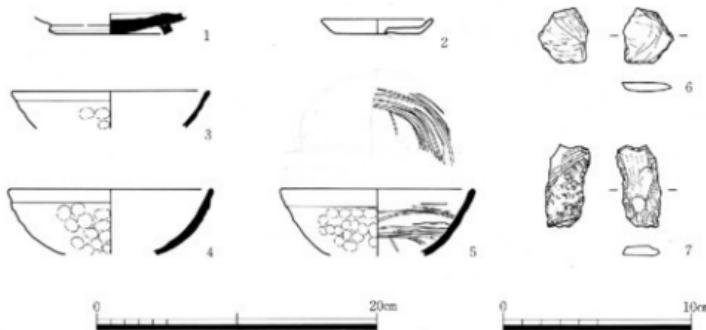
第6図 小塩遺跡調査地位置図 (1/5000)



第7図 小塩遺跡遺構全体図 (1/50)



第8図 小塩遺跡土層断面図 (1/50)



第9図 小塩遺跡出土遺物実測図

[ピット群]

13箇所のピットを確認した。規模は、最大径0.45mから0.1mまで、深さ0.1mから0.4mのもので、いずれも建物には復元できなかった。

遺物は、実測可能なものは出土しなかった。

C.まとめ

遺構については、ピットの検出から周囲に建物が存在することは間違いない。包含層の遺物は、須恵器杯身（1）、土師器皿（2）、瓦器塊（3・4・5）、サヌカイト（6・7）が実測可能であった。

当該遺跡は、調査を進める度に種々の遺構が確認され、範囲も広がり大規模な遺跡であることが判ってきた。

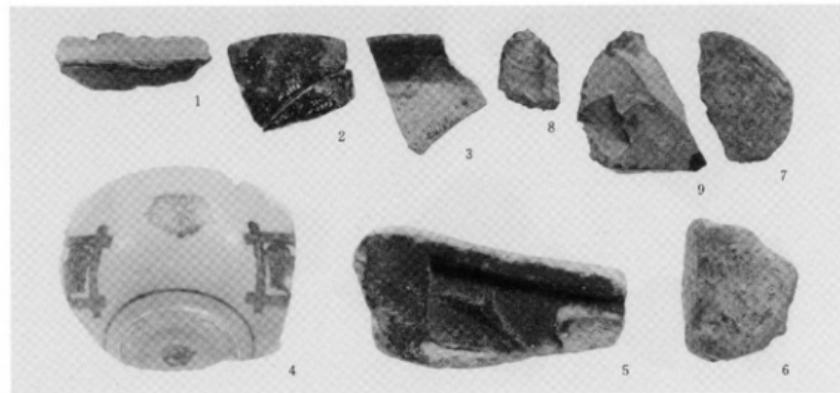
図 版



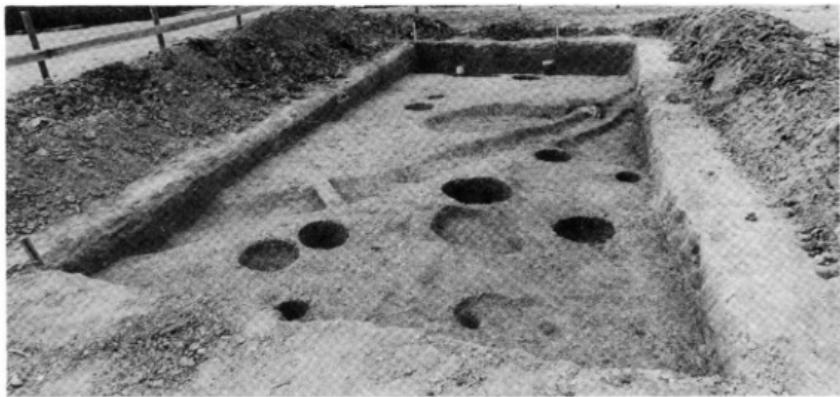
調査区全景（南から）



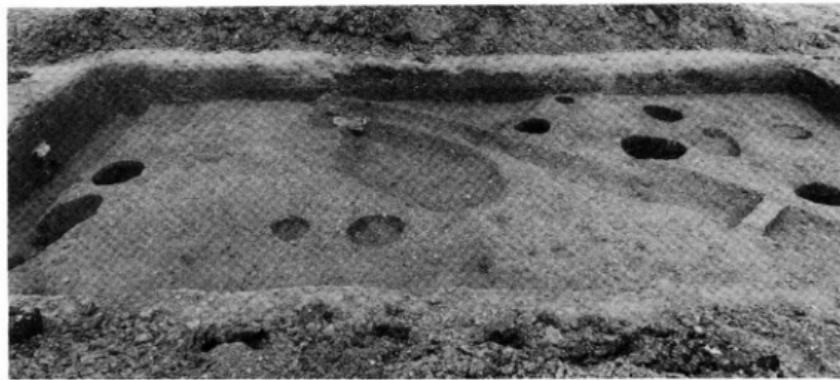
調査区全景（北から）



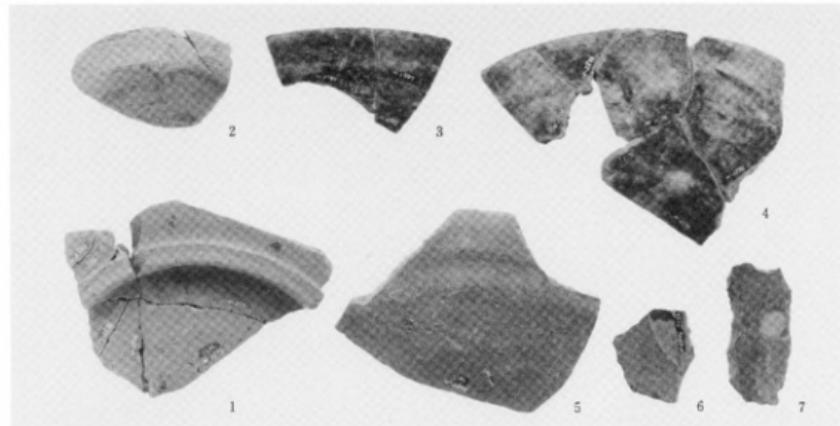
出土遺物



調査区全景（北から）



調査区全景（西から）



出土遺物

